

平成29年度シラバス作成の留意事項

平成29年度のシラバス作成にあたっては、シラバスに関する認証評価の評価基準を確認するとともに、自学自習を促す事項を適切に記述することに留意してください。

1. シラバスに関する認証評価の評価基準

(1) 大学基準協会のシラバスに関する評価基準

学生の学修意欲を促進させるために、適切な履修指導を行うとともに、適切なシラバスを作成し授業計画に基づいて教育研究指導を行い、授業形態、授業方法にも工夫を凝らすなど、学修の活性化のための十分な措置を講ずることが必要である。

(2) 大学改革支援・学位授与機構

5-2 教育課程を展開するにふさわしい授業形態、学習指導法等が整備されていること。

5-2-3 適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(3) 日本高等教育評価機構

大学は、教育研究上の目的を達成するために、学部・研究科等の各教育組織において教育課程を編成し、学生にとって必要な学習量、教育評価の方法を定める必要があり・・・

2. シラバスとは何か

(1) 学生に対する授業契約書

(2) 学習の指針

シラバスは、学生が授業中や授業外で学習を行うための指針を示すものです。学生は、シラバスの項目に記載された情報にもとづいて、予習・復習などを行います。

(3) 授業改善のための具体的材料

(4) 認証評価体制への対応

認証評価では、成績評価基準は授業の目標と対応しているか、成績評価基準にしたがった成績評価が実際になされているか、などが問われます。シラバスはその根拠資料となります。

(5) 教員の義務

3. シラバスの書き方

● 授業概要

学生が、何のために、何を、どのように学ぶか、授業の趣旨を学生が主語となるように記述します。学生が理解できるよう、「〇〇のために」「◇◇を目的として」といった意義を、カリキュラムや学問体系および実際的な応用場面における位置づけ等も含めてわかりやすく記述し、専門用語は多用しないようにします。「理解を深める」「能力を養う」等の総括的な述語を用いて記述することができます。

● 到達目標

カリキュラムの中でどのように位置づけられているのか、どのような学習成果を求めら

れているのかを勘案し、学生がこの授業を履修することで獲得できる①知識・理解、②思考・判断、③関心・意欲、④技能・表現などの事項を学生が主語となるように記述します。

「到達目標」は「成績評価の基準と方法」と対応していますので、学生がその目標にどの程度到達することができたのか的確に評価できるような、**測定可能**な行動をとるような述語を用いて記述する必要があります。

- 授業計画

15回の授業それぞれについて、どのようなことを学ぶのか、どのような授業が行われるのかを記述します。定期試験は15回の授業とは別に記述します。

- キーワード

学生が検索しやすい授業のキーワードを記述して下さい。

- テキスト・教材

学生が授業の準備や予習・復習に取り組むことができるようにできるだけ記述して下さい。この記述と授業計画、準備学習とが関連します。

- 参考図書

テキスト・教材と同様、学生が授業の準備や予習・復習に取り組むことができるようにできるだけ記述して下さい。

- **準備学習（予習・復習）等の内容と分量**

予習・復習等の準備学習の内容について記述して下さい。分量については、ページ数、（時間）等を記述します。可能であれば到達目標の達成のための具体的なポイント、更には回ごとの学習方法と内容、分量、具体的課題を盛り込むと良いでしょう。

（参考）授業内学習の2倍の授業外学習の必要時間の分量が目安となります。

- 成績評価の基準と方法

「到達目標」に対する学習成果の達成度を適切に評価できる方法を記述します。定期試験、小レポート、小テスト、期末レポート等、成績評価に関わる方法を具体的に列挙し、それらの評価の割合を記述します。「総合的に評価する」というような曖昧な表現や、授業への出欠状況を単に点数化し評価に用いることは避けて下さい。可能であれば到達目標ごとの評価方法や評価基準を、ルーブリックを用いるなどして記述すると良いでしょう。（ルーブリックなどの参考画像の項目にて添付可能です。）

（参考）できれば到達目標で示した獲得事項と評価方法との対応関係を考慮して下さい。

	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	技能・表現
定期試験 (50)	◎	◎		○
小テスト (20)	◎	○		◎
期末レポート (20)			◎	○
小レポート (10)	○		○	○

- ルーブリック表などの参考画像

10MB 以内のファイルサイズの画像が添付可能です。ルーブリック表などの添付に利用し

てください。

- 履修にあたっての注意事項

当該科目がカリキュラムに設定されている科目群とどのような関係にあるのかを踏まえて、履修にあたって事前に履修しておく必要のある科目や当該科目が履修の前提となっている科目等を記述します。

- 在室時間（オフィスアワー）
- 参照HP
- 研究室HP
- 備考
- 更新日時

4. シラバス作成に当たっての参考文献

a. ダネル・スティーブンス+アントニア・レビ著、佐藤浩章監訳、井上敏憲+俣野秀典訳

『大学教員のためのルーブリック評価入門』、玉川大学出版部、2014年

概要：ルーブリック作成に当たっての利点、並びに作成手順について個別具体的事例を交えて記載されています。ただ、ほとんどの授業がいわゆるアクティブ・ラーニング式に行われているアメリカの大学を念頭に書かれた本ですので一部はご参考にとどまります。ルーブリックのイメージが十分に沸いていない場合に手引きとなり得ると思われれます。

b. ウォルター・ディック+ルーケ・アリー+ジェイムズ・O・ケアリー著、角行之監訳

『はじめてのインストラクショナルデザイン米国流標準指導法 Dick&Carey モデル』、ピアソン・エデュケーション、2004年

概要：教育方法の改善について手引きとなる書籍です。ゴールの設定を根底とし、ゴールに基づいて教授方略と評価が決定されることを説いています。企業の社員教育にも用いられるなどしており、抽象的な記述も散見されますが、授業改善の意識付けという観点からは有用な書籍と思われれます。